

明治大学リバティアカデミー

明治大学 理工学部 向殿政男

1. 機関の紹介と教育活動の趣旨

明治大学には、大学の「社会貢献」という役割に積極的に応えるために、本学の生涯教育の拠点として、1999年4月から明治大学リバティアカデミーが設置されている。また、明治大学理工学部では、大学院に領域横断的、文理融合的な学問である安全学に関する専攻または系を設置することを目指し、2005年4月から明治大学安全学研究所が設置されている。それ以後、リバティアカデミーと安全学研究所との共催で安全学講座が開講され、公開講座として一般公開されている。

安全学講座開講の目的は、以下の通りである。すなわち、安全・安心な社会の実現のためには、技術的な安全の実現だけでなく、社会科学や人文科学も包含して、広く、統一的、包括的、領域横断的に考察する安全学必要がる。このような新しい学問として安全学を確立し、大学または大学院の授業として開講することが望まれる。そのための先駆的な試みとして、安全学講座では、安全とは何かなどの理念的な面、誤使用などの人間的な面、消費者の生活や企業活動の社会的な面など、安全学の立場から、暮らしの中の安全、社会の中の安全について広く統一的に講義をすることとした。更に、具体的な事例を基に、技術、ヒューマンファクタ、社会規範・法制度、消費者の権利、誤使用事故防止など、多面的に安全の確保の方策を講義することを目的としている。

この目標のために、安全学のカリキュラムの開発を目的に委託事業の展開、及び、安全学の普及・啓蒙を目的とした講座などを開講すると共に、リバティアカデミー独自の事業として安全学研究所との共催で有料の安全学の公開講座を開講してきた。これらの成果を踏まえ、新しく2008年度から設置された明治大学理工学研究科新領域創造専攻の中の安全学系の大学院生には、この安全学講座を履修することにより単位の認定を行うことにした。更に、これを発展・充実させて、2009年度からは、安全学講座は新領域創造専攻安全学系の正規の科目である安全学特論として設置し、これを公開講座としても一般公開することになっている。すなわち、この安全学特論の講義は、寄附講座の費用により、リバティアカデミーの公開講座としても一般の社会人に廉価で公開されることになっている。

2. 「知の市場」参加の経緯

2005年度から2008年度まで本再教育講座の関連講座として、明治大学リバティアカデミーと明治大学安全学研究所の共催で安全学講座を開講してきた。その中には、以下のよう、製品安全や機械安全を普及させるために経済産業省や日本機械工業連合会の委託事業として無料で開講したものと、明治大学リバティアカデミーの正規の事業として有料で開講したものと、UL-Japanの寄附講座として極めて廉価で開講したものとがある。2009年度からは、これらの継続・発展の形として正規の大学院の授業と連動させて開講することになっている。

2005年度

- (1) 経済産業省委託事業：明治大学リバティアカデミー、明治大学安全学研究所共催
安全学入門～製品の安全をどのように考えるか～ 授業 12回 無料
受講者 143名 受講修了証は発行せず
- (2) 日本機械工業連合会委託事業：明治大学リバティアカデミー、明治大学安全学研究所共催、安全工学の基礎講座～安全原則を現場実践に活かす手法を考える～
授業 12回、有料（18,000円）、
受講者 26名 受講修了証を渡した数 17

2006年度

- (1) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
安全学入門～製品の安全をどのように考えるか～ 授業 12回マ 有料(12,000円)、
受講者 29名 受講修了証を渡した数 19
- (2) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
安全工学の基礎講座～安全原則を現場実践に活かす手法を考える～
授業 12回、有料（18,000円）
受講者 32名 受講修了証を渡した数 24
- (3) 経済産業省委託事業：明治大学リバティアカデミー、明治大学安全学研究所共催
製品の安全学～危険な製品市場を脅かさないために～ 授業 6回 無料
受講者 247名 受講修了証を渡した数 143

2007年度

- (1) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
安全学概論1～暮らしの中の安全を考える～ 前期 授業 8回 有料（24,000円）
受講者 18名 受講修了証を渡した数 14
- (2) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
安全学概論2～社会の中に安全を創る～ 前期 授業 8回 有料（28,000円）
受講者 30名 受講修了証を渡した数 25
- (3) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
製品の安全学入門 後期 授業 6回 有料(18,000円) 定員 24名
受講者 20名 受講修了証を渡した数 19
- (4) 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
機械安全とリスクアセスメント 後期 授業 6回 有料(18,000円) 定員 24名
受講者 32名 受講修了証を渡した数 26

2008年度

1. 明治大学リバティアカデミー講座、明治大学安全学研究所共催
 - (1) 安全学概論1ー暮らしの中の安全を考える 前期 授業8回 有料：24,000円
受講者数：30名 受講修了証を渡した数 25
 - (2) 安全学概論2ー社会の中の安全を創る 前期 授業8回 有料：28,000円

受講者数：32名 受講修了証を渡した数 16

2. UL-Japan寄附講座：明治大学リバティアカデミー主催、明治大学安全学研究所共催

(3) 製品安全学入門 後期 授業6回 有料：5,000円

受講者数（一般社会人） 57名 受講修了証を渡した数 49

(4) 機械安全とリスクアセスメント 後期 授業6回 有料：5,000円

受講者数（一般社会人） 50名 受講修了証を渡した数 47

3. 2009年度明治大学リバティアカデミー公開講座開講科目の紹介

1. 安全学特論（前期）安全学特論：理工学研究科新領域創造専攻安全学系科目）

1) 「安全学特論1～暮らしの中の安全を考える～」

第1回 安全学の構造

第2回 安全とリスクの概念

第3回 「誤使用」と製品安全

第4回 「使いやすい」製品設計

第5回 リスクコミュニケーションの基礎

第6回 リスクコミュニケーションの実践

第7回 子どもの安全

第8回 住まいの安全

2) 「安全学特論2～社会の中に安全を創る～」

第9回 安全のルールのある方

第11回 企業のCSRを考える

第12回 企業の安全文化を創る

第13回 材料・環境からの安全を考える

第14回 リサイクルから安全を創る

第15回 世界の中の安全

第16回 ディスカッション

2. 製品・機械安全特論（後期）新領域創造特論3：理工学研究科新領域創造専攻安全学系科目）

1) 製品の安全学入門

第1回 製品の安全学概論

第2回 製品の誤使用について

第3回 製品の安全管理と保証

第4回 製品のリスクアセスメント

第5回 製品の認証について

第6回 製造者の責任とユーザの知る権利

第7回 演習

2) 機械安全とリスクアセスメント

第8回 機械安全と包括安全基準 向殿政男

第9回 国際安全基準の考え方 宮崎浩一

- 第10回 安全と技術
- 第 11 回 リスクの分析と評価～機械の安全を例にして～
- 第 12 回 機械安全におけるリスクアセスメント
- 第 13 回 制御システムにおける安全
- 第 14 回 労働安全におけるリスクアセスメント
- 第 16 回 生産現場での安全活動

4. その他、抱負など

これまでは、体系的なカリキュラムの一部として構成されている質の高い大学院の正規の授業科目を一般の人に受講してもらうためには、聴講生か科目等履修生の制度を利用して、別途、受講料を支払わない限り受講することはできなかった。これは、受講者の基礎実力の点からも、大学のビジネスの観点からも、また授業料を支払っている大学院生の視点からも、当然であろう。

しかし、大学院の授業の中には、特に安全学系の講義のように、一般の社会人のために、また、社会の安全・安心の実現のためにも、広く公開をして、受講してもらう価値のあるものがある。これらを、聴講生や科目等履修生の制度を利用しなくても、廉価に気楽に受講してもらうためには、寄附講座に頼る今回のような方法がその一つの試みであると考えられる。

今後、実践を通じて、安全学系の講座を更に充実・拡張をして行きたいと考えている。この開講方法は、若い大学院生と経験豊かな社会人とが一緒に授業を受けることで御互いに刺激し合い、学び合うという利点も存在する。今後は、多忙な社会人が将来大学院に入学して修士の学位を取得するために、前もって単位を取得し、蓄積しておくための手段として、有効な講義方法に繋がりたいと考えている。